



肺がんについて③

わが国における死因の第一位は「がん」です。その中でも死者数の最も多いがんは「肺がん」で、一年間に7万6千人もの方の命を奪っています。そんな怖い病気ですが、多くの人に肺がんについて知っていただくことで、「治る患者さんを増やす」ことができると考えています。そこで、今回は肺がんの治療についてお話しさせていただきます。

第三回 肺がんの治療について①

肺がんの治療は、大きく分けて3つ、手術・抗がん剤・放射線です。今回は手術に関してお話しします。現在、100%効果のある抗がん剤や放射線治療はありません。早期肺がんでは病巣を含めて肺を切除する方法が最も治る割合が高いことが分かっています。そのため早期肺がんの治療は手術が第一に選択されます。肺がんの手術が初めて成功してから90年余りを経て、肺がん手術は進化してきました。進化を重ねるごとに傷が小さくなっているのが分かります(図)。

- ① **開胸手術**▼手を入れて手術をするので約40cmの創(傷)が必要になります。
- ② **小開胸手術**▼約10cmの傷から長い手術器具を入れて行います。手術するところを目で見ながら行います。
- ③ **胸腔鏡下手術**▼1〜2cmの傷からカメラと器具を挿入して行います。近年最も多くの施設で行われている肺がん手術です。そして第4の進化が手術支援ロボットを使ったロボット支援下肺切除術です。

④ **ロボット支援下手術**▼外科医がロボットを使って手術をします。ロボットの手には関節が付いているので、今までの器具と異なり細かい作業が容易に、そして正確にできます。

文章だけでお伝えするのは難しいので、詳しくお知りになりたい方は大雄会のホームページ「呼吸器外科におけるロボット支援下手術について」をご覧ください。

詳しくはこちらのQRから



呼吸器外科における
ロボット支援下
手術について

次回も引き続き、肺がんの治療についてお話しさせていただきます。

肺がん手術の“進化”



監修

総合大雄会病院 副院長

ぬまなみ ひろき
沼波 宏樹 医師

(主な資格)

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医

社会医療法人大雄会は、車いすプロテニスプレイヤー

おだ ときと
小田 凱人選手を応援しています!



大雄会がクラウドファンディングに挑戦!
送迎車【増車】プロジェクトへご支援を。

期間 ~7/31(水)
23:00まで

ご支援の
使い道 患者さま、ご利用者さま
送迎用車両の購入(増車)



詳細はこちら